

金山町立金山中学校 第12号

学校だより

令和5年3月1日発行
発行責任者:金山中学校長

県教委主催「みんなで跳ぼう!なわとびコンテスト」上位入賞

令和4年9月1日から令和5年1月31日の期間に、福島県教育委員会主催による標記コンテストが開催されました。本コンテストは、生徒の日常的な運動の機会を増やすことで、自分自身の体力向上と健康づくりに積極的に取り組む意識と実践力を育むことを目的としています。

本校では体力の増強を図り、健康の保持増進及び部活動の競技力向上を目指すために、12月から3月までの期間、放課後の部活動が始まる前の20分間を使用し、全校生徒でリズム運動や縄跳びに取り組んでいます。そのメニューの一環として、標記コンテストにチャレンジしました。練習開始当初は連続して跳ぶことができず、すぐに長縄に引っ掛かることが多かったのですが、3年生を中心に意見を出し合い、長縄を回す速さ、回す人の立ち位置、跳ぶ順番、跳んだ後の動きなど日々改善を加え少しずつ記録を伸ばしてきました。金中生全員で掴んだ栄光です。

部 門	順 位	チ ャ ーム	記 録
1 学年 9 人以下の部	第 1 位	金山中学校第 1 学年	1 6 4 回
2 学年 9 人以下の部	第 1 位	金山中学校第 2 学年	1 0 0 回
3 学年 9 人以下の部	第 2 位	金山中学校第 3 学年	1 3 2 回
2 学年 10～25 人の部	第 2 位	金山中学校第 1・2 学年	2 9 4 回
3 学年 10～25 人の部	第 7 位	金山中学校第 1～3 学年	2 4 4 回



除雪ボランティア活動 ～除雪作業で地域貢献～

2月10日（金）、町社会福祉協議会に協力していただきながら、町内の住宅において除雪作業を行いました。小雪が降る中ではありましたが、屋根からの落雪で窓を覆うように積もった大きな雪の壁を崩し、また住宅にもたれた雪をならすなど、休憩時間を惜しみながら熱心に活動しました。住民の方からの「ありがとう」の言葉に、生徒たちは充実した表情を見せていました。



避難訓練に基づく主体的な判断と行動が多くの命を救った

東日本大震災から12年を迎えます。震災は、私たち一人一人が日常における安全への取り組みをはじめ、生きることの意義など、急速な社会の変化で見落としがちな多くのことを見つめ直す機会を与えてくれました。

今回の震災で被災された多くの学校で代え難い命を救ったのは、子どもたち自身の判断と素早い避難行動であることが明らかになりました。震災前、多くの学校の避難訓練では、放送をよく聞き、指示に基づいて安全に避難することが重点でした。そこでは、避難の過程で自ら考え判断することは、それほど強く求められない状況がありました。しかし、震災により、停電で避難放送もできず、また、津波も予想をはるかに上回り、通常の避難方法や場所等の問題点が浮かび上がりました。そのようななか、釜石の小学校では下校後の地震発生によって誰の指示もなく、自ら考え、判断し、安全に避難しなければならない状況であったと報告されています。一人で自宅から自主的に避難場所に避難した子。揺れが収まっても避難しない家族を説得して避難した子。また、避難場所を巡って意見が分かれながらも安全を優先し、釣りをしていた岸壁から高台に避難した同級生の仲良しグループなど、日頃の避難訓練で学んだことを生かして身に付けた主体的な判断と行動が多くの命を救ったのです。

知識としての安全を受け身ではなく、自分の命を守り、さらに社会の一員として意識して行動した結果、多くの命が失われずに済んだのです。「助けられる人から助ける人へ」の転換は、一人では生きられない人間にとって私たちの生き方そのものにも関わることです。それだけに、学んだことを日々の生活に生かすことが、学校だけでなく生活の拠点である家庭地域においても求められます。

